

# 未来の地域モデルに

## 世界健康首都会議

報告

ドイツと日本の高年齢社会と幸福論

ドイツ日本研究所所長 フロリアン・クルマスさん

どのように長生きできれば、人は幸せに感じられるのでしょうか。

日本とドイツには多くの類似性が見られます。どちらも国連の「人間開発指数」では世界上位で、非常に恵まれた国です。しかし、国民の意識調査を基にした「幸福度」の順位はそう高くありません。マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナム、メキシコ、ブラジル、アルゼンチンこの7カ国は、国民1人当たりのGDPや平均寿命は日本やドイツより低いですが、幸福度指数は上位。そして若い国々です。年齢中央値をみると、例えばマレーシアの25・1歳に対し日本は45歳です。

高年齢化や人口減少という点でも日本とドイツの社会は似ています。日本はそのため経済成長が難しくなっています。ドイツは、出生率は日本と同じく非常に低いのですが、「移民」が多い点が最も大きく異なります。

社会福祉政策にも違いがあります。家族手

若者と高齢者のサポート、その社会政策の調和を見つめるのは難しい。世代が対立する枠組みでは実現できません。先日、「いい爺いライダー」という映画を見ました。監督95歳、カメラマン89歳、役者の平均年齢は78歳。みなプロではありませんが、何カ月も努力し、当初より健康な状態で撮影を終えたそうです。

高齢者たちが、自分は社会に貢献できる存在だと実感できる。これが幸せな長寿社会をつくるポイントだと思います。

高年齢社会と幸福論

ドイツ日本研究所所長 フロリアン・クルマスさん

高年齢化や人口減少という点でも日本とドイツの社会は似ています。日本はそのため経済成長が難しくなっています。ドイツは、出生率は日本と同じく非常に低いのですが、「移民」が多い点が最も大きく異なります。

社会福祉政策にも違いがあります。家族手

高年齢化や人口減少という点でも日本とドイツの社会は似ています。日本はそのため経済成長が難しくなっています。ドイツは、出生率は日本と同じく非常に低いのですが、「移民」が多い点が最も大きく異なります。

社会福祉政策にも違いがあります。家族手

若者と高齢者のサポート、その社会政策の調和を見つめるのは難しい。世代が対立する枠組みでは実現できません。先日、「いい爺いライダー」という映画を見ました。監督95歳、カメラマン89歳、役者の平均年齢は78歳。みなプロではありませんが、何カ月も努力し、当初より健康な状態で撮影を終えたそうです。

高齢者たちが、自分は社会に貢献できる存在だと実感できる。これが幸せな長寿社会をつくるポイントだと思います。

持続可能な成長と健康な生活

スウェーデン王国前駐日大使・東京大学総長室顧問 ステファーン・ノレーンさん

スウェーデン人は自然が大好き。自然は生活の一部であり、文化にも大きな役割を果たしています。だから積極的な環境政策をとってきました。総じて目指すのは「良い環境を次世代へ引き継ぐ」こと。このコンセプトは2003年に憲法にも付加されました。「環境問題を輸出しない」ということも重要です。

この目標の下、スウェーデンでは四つの重点分野を設定しています。その一つが、省資源に優れた「グリーン経済」。環境税の導入、再生可能エネルギーへの投資などによって持続可能な社会への移行を進めるとともに、雇用拡大・産業振興も図ろうというものです。

持続可能な成長と健康な生活

スウェーデン王国前駐日大使・東京大学総長室顧問 ステファーン・ノレーンさん

スウェーデン人は自然が大好き。自然は生活の一部であり、文化にも大きな役割を果たしています。だから積極的な環境政策をとってきました。総じて目指すのは「良い環境を次世代へ引き継ぐ」こと。このコンセプトは2003年に憲法にも付加されました。「環境問題を輸出しない」ということも重要です。

この目標の下、スウェーデンでは四つの重点分野を設定しています。その一つが、省資源に優れた「グリーン経済」。環境税の導入、再生可能エネルギーへの投資などによって持続可能な社会への移行を進めるとともに、雇用拡大・産業振興も図ろうというものです。

問題は輸送部門です。依然95%も化石燃料に頼っていますが、少なくとも10%は再生可能エネルギーに転換したい。一つの手段がハイブリッド化や電気自動車の導入です。日本はこの分野で近年非常に成功しており、世界をリードしています。

興味深いのは、スウェーデンでは1970年代から温室効果ガスの排出量が年々減少しているのに対し、GDP(国内総生産)は上昇し続けていることです。

持続可能な社会と高度な経済成長は両立しうる。それが私からのメッセージです。

持続可能な成長と健康な生活

スウェーデン王国前駐日大使・東京大学総長室顧問 ステファーン・ノレーンさん

スウェーデン人は自然が大好き。自然は生活の一部であり、文化にも大きな役割を果たしています。だから積極的な環境政策をとってきました。総じて目指すのは「良い環境を次世代へ引き継ぐ」こと。このコンセプトは2003年に憲法にも付加されました。「環境問題を輸出しない」ということも重要です。

この目標の下、スウェーデンでは四つの重点分野を設定しています。その一つが、省資源に優れた「グリーン経済」。環境税の導入、再生可能エネルギーへの投資などによって持続可能な社会への移行を進めるとともに、雇用拡大・産業振興も図ろうというものです。

持続可能な成長と健康な生活

スウェーデン王国前駐日大使・東京大学総長室顧問 ステファーン・ノレーンさん

スウェーデン人は自然が大好き。自然は生活の一部であり、文化にも大きな役割を果たしています。だから積極的な環境政策をとってきました。総じて目指すのは「良い環境を次世代へ引き継ぐ」こと。このコンセプトは2003年に憲法にも付加されました。「環境問題を輸出しない」ということも重要です。

この目標の下、スウェーデンでは四つの重点分野を設定しています。その一つが、省資源に優れた「グリーン経済」。環境税の導入、再生可能エネルギーへの投資などによって持続可能な社会への移行を進めるとともに、雇用拡大・産業振興も図ろうというものです。

問題は輸送部門です。依然95%も化石燃料に頼っていますが、少なくとも10%は再生可能エネルギーに転換したい。一つの手段がハイブリッド化や電気自動車の導入です。日本はこの分野で近年非常に成功しており、世界をリードしています。

興味深いのは、スウェーデンでは1970年代から温室効果ガスの排出量が年々減少しているのに対し、GDP(国内総生産)は上昇し続けていることです。

持続可能な社会と高度な経済成長は両立しうる。それが私からのメッセージです。

## プラチナ社会実現に向けて

松本地域健康産業推進協議会 会長顧問 株式会社三菱総合研究所 理事長 小宮山 宏さん



### 新しい動きを 松本から世界へ

今日ほど人類が豊かさを享受している時代はありません。先進国はもちろん、多くの途上国もやがて物質的豊かさを実現するでしょう。ただ、その豊かさは環境悪化やエネルギーの枯渇、長寿社会の到来…といった問題を抱えています。そうした心配を克服し、いかに長寿を楽しめる社会を構築するか—が今、まさに問われているのです。

科学技術の発達はそのような社会の実現を支える基盤。個々人が健康で幸せな長寿を楽しめるようにすることは、社会的な負担の軽減にもなるでしょう。そして、それを実行するには、市民が責任と自覚をもって、連携することが不可欠です。

そういう「プラチナ社会」を、松本という一都市から発信する意義がここにあります。松本から世界へ、新しい動きとなっていくことを期待します。

## 信州メディカルシーズ育成拠点について

松本地域健康産業推進協議会 副会長 信州大学 学長 山沢 清人さん



### 産学官で地域産業を 育成・振興

信州大学の松本キャンパス(松本市)に2010年3月開設された「信州メディカルシーズ育成拠点」は、信州が培った精密技術と信大医学部・附属病院の医療ニーズ、他学部も含めた研究開発の成果を結び付け、新しいメディカル産業の育成・振興を図り、地域の活性化につなげよう—という、産学官連携で実現した施設です。

県内企業と共同で研究開発や新技術の製品化に取り組む研究棟「信州地域技術メディカル展開センター(仮称)」も、松本キャンパス内に建設を予定しています。

県内の大学はいずれも地域貢献に熱心ですが、信大ではこうした取り組みが進んでいます。「プラチナ社会」を松本から実現していくために、

The World Health Capital Conference

# 「健康寿命延伸都市」を

PR

## 世界健康首都会議 宣言文

超高齢社会において、身体と心の健康は、単に個人の問題だけではなく社会の問題でもあること、さらにそれを維持するためには、疾病予防の努力が不可欠です。個人の意識改革を進めるとともに、社会インフラを整え、企業と学術機関の叡智を形にする、産業化に向けての強力な営みが必要です。

21世紀に生きる私たちの健康は、自立した生活のもとに、社会と積極的にかかわりを持ち、社会の中で自らの役割を実感して生きていくことにより、維持されるものであると考えます。

超高齢社会に生きる市民全てが尊厳をもって生き、全員が社会の資産であり、市民一人ひとりの「いのち」と「暮らし」を大切にす、という認識を共有する社会こそが、世界の目指す「健康寿命延伸都市」であり、それは同時に世界健康首都の姿でもあります。

私たちは、世界健康首都会議を通じて以下の7項目を共有し、21世紀の健康のあり方を世界に向けて松本から宣言します。

- 1 健康は、活力ある超高齢社会の源です。
- 2 健康は、個人の問題だけではなく、社会の問題でもあります。
- 3 健康は、疾病予防の努力によって支えられます。
- 4 健康は、快適な生活空間と環境に配慮したまちづくりによって支えられます。
- 5 健康には、自立した生活、社会との積極的なかかわり、さらに、社会の中で自らの役割を実感して生きていくことが求められます。
- 6 健康には、産業化による持続可能な社会システムの確立が不可欠です。
- 7 健康には、市民、企業、学術機関、行政の相互連携が大切です。

2011年12月9日



世界健康首都会議  
松本市長 菅谷 昭

健康で快適な超高齢社会実現の道を探る「世界健康首都会議」が昨年12月、松本市Mウイング(松本市中央公民館)で開催されました。  
行政や企業の関係者、市民ら約300人が参加。環境産業の先進国スウェーデンの事例やドイツの高齢社会の実態報告、ヘルスケア産業育成に対する国の施策、個別企業の具体的な取り組み紹介などを通じて、健康・介護をはじめ超

高齢社会を支えるさまざまなものの産業化によって持続可能な社会システムを確立することの必要性について認識を深め、松本市が推進する「健康寿命延伸都市」構想を国内外に発信しました。  
同会議は、松本市など松本地域の行政や大学、企業、信濃毎日新聞社などをつくる「松本地域健康産業推進協議会」(44企業・団体)の主催で開きました。要旨を紹介します。

### 基調講演③

## 信州・松本の地で考える健康寿命

信濃毎日新聞社編集委員 飯島裕一さん

平均寿命が長く、県民1人当たりの老人医療費が低い長野県は「健康長寿県」と言われてきました。その背景として、高齢者の就業率が全国トップの高さであること、保健予防活動が充実していること、さらに、住民組織による保健予防

## 社会システム整備 —松本の試みに期待

健康を個人だけの責任に帰すのではなく、健康という切り口から社会システムを整備してこう—という松本市の試みには、そうした意味で期待しています。優れた自然環境や文化に、温泉もあります。それらを生かした滞在型の健康保養地としての受け皿づくりも進めてほしいと思います。



の知識や意識の普及、自然環境の良さなどが挙げられます。こうした健康長寿の底流は現在にもつながっています。  
長寿社会が実現した今日、健康とは、より幅の広い、充実した人生を送るために大切なものです。ですから、「健康寿命を延ばそう」という取り組み

縄・那覇では病院の理学療法士らが商店街へ出向き、リハビリを兼ねて買い物をする退院患者さんに健康指導をしています。生活支援サービスの一端ですが、商店街も集客が2倍になり相乗効果を生んでいます。ヘルスケアが街の機能・活動をベースで支えていく環境を整えたいと考えています。

## 国の取り組み ヘルスケア産業について

経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課長 藤本康一さん

日本では、医療や介護といった「ヘルスケア」を保険制度中心に考えてきました。保険制度は保険料という限られた財源の枠内で、決められた内容・値段のサービスを提供する計画経済。新たなサービスの提供となると、議論も困難を極めます。

日本の医療制度は元々、ケガや疾病を治すために作られたものですから、退院後のリハビリや疾病予防などのサービスは念頭にありません。「量の上で死にたい」と望んでも基本的には病院へ行くしかありません。しかし、これからのヘルスケアは需要に幅広く応えていかなければなりません。公的保険で難しいなら

## 「ヘルスケア」は 街の活力を支える基盤

保険外でサービスを提供していく工夫が重要です。  
保険制度自体は大事です。その計画経済を核として、運動指導や食事指導、口腔衛生、配食、身体機能訓練といったサービスを、医療機関や事業者が連携し、上乗せで提供し

ていく仕組みを作ることを、そして産業として根づかせることが今求められているのです。沖縄の実証事業も国内各地で始まっています。



ていく仕組みを作ることを、そして産業として根づかせることが今求められているのです。沖縄の実証事業も国内各地で始まっています。

人工骨など日本が得意とするものは技術とともに外国へ提供し、足りない部分は外国から取り入れ、合理的に市場全体を広げることが必要でしょう。海外で日本式の医療を行う拠点づくり、逆に、海外の患者さんを受け入れる仕組みづくりも始まっています。

The World Health Capital Conference

# The World Health Capital Conference

## Matsumoto Declaration

Under the circumstances of the super aging society, maintaining physical and mental health should be the major issue not only for any individual but also for any societies in the world.

It is clear that in order to sustain citizens' sound body and mind, preventive care is essential.

In addition, we must encourage new ways of thinking about health, and improve as well as enhance social infrastructures. Also, strong initiatives will be required for creating new industries in the active super aging society, by wisdom and cooperation of private corporations and academic institutions.

In the 21<sup>st</sup> century, we trust that our sound body and mind can be maintained through the lifestyle with which each individual would be able to make living by realizing his or her social role, and participating in the society, and living an independent life.

The universal goal of the Sustainable Healthy City is to become a society where every citizen who lives in the super aging community enjoys his or her life with dignity, and each one of them is deemed as an irreplaceable social asset, and therefore, each one of citizen's "Life" and "Existence" are highly respected. We recognize that the above goal shall be shared by any nations and cities, and that where such citizen lives shall be named as the Healthy Capital in the World.

We declare the following seven messages of health city model for sustainable aging society in the 21<sup>st</sup> century at the occasion of the World Health Capital Conference in Matsumoto.

- Health is an essential base for an active super aging society,
- Health is not only an individual issue but also a social issue,
- Health shall be sustained through an effort of preventive care,
- Healthy society is realized by comfortable living environment and environment friendly urban management,
- Healthy society is achieved by living an independent life, participating in social activities, and feeling an actual self-role in the community,
- Realization of an active super aging society will create variety of new industries,
- Establish close partnerships among citizens, corporations, academic institutes and government administration.

December 9, 2011

The World Health Capital Conference in Matsumoto  
Mayor of Matsumoto City  
Akira Sugeno